

YMCA News

2

2月25日は ピンクシャツデー



差別と偏見について



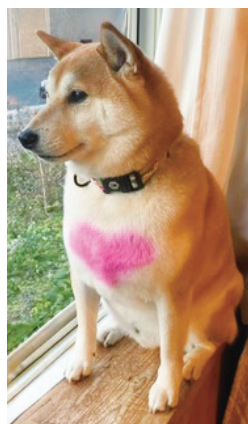
ちょうど一年前、我が家の柴犬「チャロ」君(5歳)の白い胸元はショッキングピンク色(ハート柄)に染められました。ペット専門学校の毛染め実習に参加したからです。実習終了の知らせを受けお迎えに行くと、そこには若い学生に囲まれた、ご機嫌なハートの犬がいました。「半年間、換毛期までド派手なピンクのハート犬か」と戸惑いましたが、一方、オスの巨大柴にピンクのハートを堂々とデザインした若い学生の感性を眩しく感じました。

ピンクは女の子、ブルーは男の子。このイメージは私たちの間でも身近です。SNS等で見ると海外で流行し日本でも近年イベント化している、「生まれてくる子どもの性別発表を『ピンクかパステルブルー』で発表する」性別発表会からはじまり、ジェンダーに合わせた色という無言のメッセージの中で子どもたちは成長し、やがて新しい世界との関わりが広がるにつれ自分の好きな色を見つけます。『二つの性別にピンクとパステルブルーの選択肢』は1960年代米国で定着したとのことですが、ピンク色の近代史を振り返ると第二次世界大戦時のドイツや冷戦時代には差別、軟弱さ、悪意の象徴として強制的にピンクの三角形マークを胸に身につけさせることで侮蔑、貶めるの象徴という負の歴史がありました。1960年~70年代のピンクは「女性らしさを強調しフェミニズムに反対する女性たちの色」として、1980年代後半にはピンクを強制させられた過去をもった性的少数者の人々から「偏見と差別を乗り越えた性的少数者の誇り」の色として、更に偏見とそこから来る黙殺を決して許さない「声を上げる色」として進化してきました。

今年もピンクシャツデーの季節が巡ってきました。私たちは今年のピンク

シャツデーにピンクを身につけ、これからの一年間、偏見に声をあげる私たちの始まりとしたいものです。

聖書の創世記には「この世を神が創造され、それらを見渡した神は『見よ、それは極めて良かった』」と語られた創世神話が記しています。「造られたものを造られた姿のままで愛する」。関係の衝突や摩擦が生じるときにこそ、この言葉を思い出したい、といつも願っています。失敗をしながら、時間がかかっても、そのままの姿で愛し、この世界は極めて良いものである、というメッセージを子どもたちに伝えたいものです。



盛岡YMCAの活動の根底に愛を、黙殺を許さない連帯を。世界中で一番古い青年活動団体は今、発祥の地イギリスからはるか離れたこの地、極寒の盛岡の地で、今まさに激アツにボランティア活動が企画され、青年活動の世界でも最前線の活動している!と活動報告を読み嬉しく思っています。子どもたちや学生ボランティアの喜怒哀楽豊かな命の輝きを、築103年の牧師館からすっかりピンクのハートが消えた柴犬と共にひっそりと見守っています。

日本キリスト教団 内丸教会 牧師
中原 陽子
(左の写真は、中原氏の柴犬 チャロ君 [5歳])

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切にし、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

最新情報はこちらでチェックできます!



ホームページ



facebook



instagram

子ども達と人権を考えるきっかけを 大学生ボランティアが「子ども人権かるた」を開催



12月26日（金）、ぷらいむ・たいむ盛岡中央校にて、大学生ボランティアリーダー主催による子どもの人権かるたが開催されました。当日は子ども約40名、職員6名が参加し、学年ごとに5～8人ずつのグループに分かれて活動を行いました。同じ学年の子ども同士で集まったこともあり、活動開始前から「何するの?」「普通のかると違うのかな」と会話をしている様子が見られました。

はじめに、人権かるたを作成したリーダーたちが読み札を読み上げ、全員でルールを確認しながら一度目のかるた取りを行いました。参加者は読み札に耳を傾け、真剣な表情で札を探していましたが、札を取った時には笑顔や歓声が上がり、会場は次第に和やかな雰囲気になっていきました。

二回目以降は、時間が来るまで読む人と取る人を交代しながら進めました。参加者全員がそれぞれの役割を経験できる進め方で、読み札を読む側は、ことばの意味を意識しながら読み上げる子どもたちもいました。取る側は、読み札の内容から想像力を働かせて札を探しており、集中した様子が見られました。役割を交代することで、かるたの楽しさだけでなく、言葉を伝えることや受け取ることの大切さを感じている様子が見られました。また、同じ平仮名が書かれていてもイラストが異なる札があり、通常のかるとは違った楽しさがありました。参加者からは「同じ言葉なのに絵札が全然違うね」「私はこっちのイラストの方が好き」といった声が聞かれ、取り札を作った人それぞれの捉え方の違いに気づく場面もありました。かるたを通して、多様な考え方があることを学ぶ様子が見られました。今回の活動は、楽しみながら人権について考えることができる有意義な時間でした。参加者同士の交流を深めるとともに、人権意識を高める貴重な機会となりました。



盛岡YMCA 中央センタースタッフ 茶畑 大地（リブリーダー）

大学生リーダーがそば打ち体験



最近そばが食べた過ぎて、手打ちそばを食べてきたひつつみです！私からは1月10日に行われた「そば打ち体験」について報告させていただきます。夏の「雫石サマーキャンプ」でお世話になったオーガニック雫石の方々が主催されたこの体験会には、地域の農家の方々と親子など総勢16名が参加しました。ワイズや農村青年塾でお世話になっている加藤さんからお声がけいただき、盛岡YMCAからはピンとひつつみが参加してきました。

そば粉とふのりを溶かした水を混ぜ合わせるところから体験会が始まり、1から始まるそば作りに興味津々でした！オーガニック雫石の方々と加藤さんが講師となり、こねるポイントや水分量の見極めなどを丁寧に教えていただきながら、実際に生地をこねてみました。しかし、そば生地の硬さを調節する作業が想像以上に難しく、水を足すタイミングや量に苦戦しました。そのせいか途切れ途切れの不恰好な麺になってしまいましたが、食べてみるととても美味しく、豊かなそばの風味を楽しむことができました。完成後は、農家の方々が育てた野菜を使った天ぷらやとろろとともに、打ち立てのそばをいただきました。どの野菜も新鮮で野菜本来の味を直に感じることができ、食材のそのものも味がもっと好きになりました。食事中に農家の方々が野菜について話す様子からは、自分たちの仕事への誇りや想いが伝わってきました。「そばがき」や「かけ」など、さまざまな食べ方も教えていただき、そばの面白さを知る貴重な機会となりました。

今回の体験を通して、地域の方々との交流の大切さを強く感じました。また、家族のために長年そばの作り方を研究し続けてきたという講師の方のお話を聞いて、単に「作って食べる」体験にとどまらず、人の想いや暮らしに触れることで得られる学びの大きさを実感しました。今後もこのような地域に根ざした体験を大切にしていきたいと思っています。

岩手大学2年
横山 結花
（ひつつみリーダー）



もりおかワイズメンズクラブ 新年例会



2026年1月10日（土）18時より、ももどり食堂駅前店にて、もりおかワイズメンズクラブ新年例会を開催しました。当日は、ワイズメン6名、担当主事1名、ゲストスピーカーとして程 海薇 様、ユースゲスト4名の計12名が参加し、新年の始まりにふさわしい、あたたかく和やかな例会となりました。

当日は「ピンクシャツデー」の趣旨に賛同し、参加者がピンクシャツを着用して記念写真を撮影しました。写真撮影というささやかな形ではありましたが、いじめのない社会を目指すピンクシャツデーの思いを共有し、YMCAに関わる者としてそのメッセージをあらためて心に留める機会となりました。

例会は、開会点鐘、会長挨拶、ワイズソング斉唱、食前感謝に続き、会食へと進みました。食事を囲みながらの会話では、近況報告や活動の話題が自然と広がり、世代や立場を越えた交流が深まる、終始なごやかな時間となりました。

卓話では、程 海薇 様より「外国人と日本人のすれ違いをなくし、地域に新たな活力を生み出す」をテーマに、多文化共生についてお話しいただきました。文化や価値観、コミュニケーションの違いから生じる日常のすれ違いについて、身近な事例を交えながら分かりやすくお話しいただき、参加者それぞれが地域や職場での関わり方を考えるきっかけとなりました。お忙しい中、貴重なお話をお聞かせくださった程 海薇様に、心より感謝申し上げます。

新年例会を通じて、会員同士の親睦を深めるとともに、もりおかワイズメンズクラブとしてのつながりをあらためて感じるひとときとなりました。本年も盛岡YMCAおよび学生ボランティア支援を大切にしながら、無理のない形で活動をしていきたいと思っております。

そして、もりおかワイズメンズクラブの会員が増えて、もっともっと充実した活動にできたらと思っています。



もりおか
ワイズメンズクラブ
三田 庸平

スキーキャンプ報告 ① ジュニアスキーキャンプ

4 質の高い教育を
みんなに



元気ピンピン、背筋ピンピンです。私からジュニアスキーキャンプのご報告をさせていただきます。

本キャンプは、2025年12月27日(土)から29日(月)の3日間、安比スキー場にて行われました。リーダー14名、ディレクター2名、メンバー35名、でホテルに宿泊しながらのキャンプとなりました。

冬のキャンプといえば、やはりスキーです！初めてスキーに挑戦する子から何度も経験している子まで、それぞれのレベルに合わせてスキーを楽しみました。スキーだけでなく、プログラムやバイキングなど生活の中にも楽しいことが盛りだくさんのキャンプでした。また、キャンプ中に歌った「キャンプで逢いましょう」は、日を重ねるごとに胸に響くものがあり、「本当にまたキャンプで逢える」と感じさせてくれる大切な時間となりました。リーダーたちは、キャンプに向けて、リーダートレーニングやミーティングを重ね、準備をしてきました。そこで学んだこと、話し合ってきたことを、実際のキャンプでチャレンジできたと感じています。

私自身メインリーダーとして、子どもたちの前で話す機会が多くありましたが、子どもたちと心が通じ合っている瞬間を感じられることが大好きです。そして、子どもたちとの思い出は計り知れません！「スキー初めての子と一緒に頂上から滑ったこと」「みんなで乾杯をして、今日頑張った自分を称え合ったこと」「水風呂対決をしたこと」「バイキングではしゃいだこと」「寝る前に語り合った熱い話」どれもかけがえのない宝物です。キャンプ大好きです！

最後に、キャンプを通して私が一番感じたことは、キャンプは自分がどういう人間なのかを教えてくれるということです。自分の言葉や行動が、子どもたちと向き合う中で、嫌な自分も好きな自分も気づかせてくれます。



キャンプに参加した一人ひとりが、「自分」を感じながら帰っていきます。そしてその気づきは、きっとその人にとっての成長につながっていくのだと思います。

岩手県立大学4年 高橋 創（ピンリーダー）

スキーキャンプ報告 ② ダイナミックスキーキャンプ

4 質の高い教育を
みんなに



子どもたちには雪女と言われますが、自称晴れ女のサンです！私から1月10日(土)から12日(月)に安比高原スキー場で行われたダイナミックスキーキャンプについてご報告いたします。今回は、子ども50名とリーダー16名、スタッフ2名の計68名で活動してきました。



1日目、初めてのキャンプに緊張している子やこれから行うスキーにワクワクしている子など、各々が色々な思いを持って集まりました。晴れの中のスキーで、子どもたちは目をキラキラと輝かせていました。スキーを終えた子どもたちからは、「早く明日にならないかな!」「もっと滑ろう!」「転ばなかったよ!」と大興奮の様子でした。

2日目は悪天候の中のスキーでしたが、猛吹雪の中でもめげることなくスキーに取り組む姿が見られました。ターンをするのが苦手だった子ができるようになったり、午前中まで転んでいた子が、午後には転ばずに滑れるようになったり、1日の中で子どもたちの成長ひとつひとつを直に感じられました。夜には「まだ帰りたくない」「もっと滑りたい」とキャンプやお友だちとの別れを惜しむ声がたくさん聞こえ、各々が最後の夜を楽しんでいました。

3日目、初日こそ学年性別バラバラのスキークラウドで緊張気味の子どもたちでしたが、ワッペンテストの際には、滑っているお友だちの応援をしたり、滑り終えてきたお友だちとハイタッチをしたりと、お互いに励まし合う仲間になっていました。

今回のキャンプを通して、リーダーと子どもたち、子どもたち同士が出会い、仲間になれるスキーキャンプが大好きだと改めて実感しました。私は別れが苦手です。今回のキャンプも別れるのが惜しいと何度も思いました。だからこそ、私もまた来たいと思うし、子どもたちにはまた来たいと思って帰ってもらいたい。そう思わせてくれるみんなと出会えるキャンプが本当に大好きです！ダイナミックスキーキャンプで出会えたみんなに声を大にしてありがとうを伝えたいです！

岩手大学3年 竹知 桃花（サンリーダー）

スキーキャンプ報告 ③ 立山スノーブリッジキャンプ

4 質の高い教育を
みんなに



2026年1月10日から12日までの3日間、国立立山青少年自然の家と、あわすのスキー場（富山県）にて「2025年度立山スノーブリッジキャンプ」が実施されました。2024年1月の能登半島地震および9月の豪雨災害により被災した子どもたちを対象とし、YMCA能登半島地震/豪雨復興支援募金により実施されました。

スキーキャンプに参加したのは、輪島をはじめとする石川県内から32名、合同で行った滋賀YMCAから9名、富山YMCAから13名、計54名の子どもたちです。また、滋賀・富山・横浜・日本YMCA同盟に加えて盛岡YMCAからOGが3名(しらたま、はなまる、しろくま)参加し、計16名のスタッフ・リーダー・OGが参加しました。さらに、スキー指導インストラクター3名の協力を得て、総勢73名のキャンプになりました。

子どもたちの半数以上がスキー初体験で、初めて履くブーツや板に期待と緊張が入り混じった様子が見られました。生活グループは地域混合・学年縦割り編成され、初めは緊張気味でしたが、グループ内で方言や文化の違いが話題になるグループもありました。夜ごはんやナイトプログラムを通してグループごとに交流が深まり次第に笑顔と会話が増えていきました。

今回私は輪島から来た小学校1年生5人のスキー指導インストラクターも担当しました。子どもたちは初めてのスキーでしたが、転んでも互いに手を掛け合い、励まし合いながら挑戦する姿からは、技術面だけでなく心の成長も感じられました。また、2日目の午後は荒天の中初めてリフトに乗り、転びながらもみんなで滑り降りてきたこと、そして「もっと滑りたい」「止まれたよ」と満面の笑みで話してくれた姿を忘れることはないと思います。2024年に行われたキャンプに参加していた子との再会や、今回初めて参加した子との新たな出会いもあったキャンプ。またいつか笑顔で再会することができればいいなと感じています。そして1日も早く復興することを願っております。

リーダーOG（2024年度卒）上越教育大学大学院1年 山口 満穂（しらたまリーダー）



アフタースクール研修会



みなさん、こんにちは。シュリンプです。私からは、1月24日・25日に高尾の森わくわくビレッジで行われた「全国YMCAアフタースクール担当者研修会」について報告いたします。全国から70名を超える参加者がありました。

今回の研修では、「子どもたちの居場所を考える」をテーマに、社会教育・社会福祉の研究者である早稲田大学准教授 阿比留久美先生（著書：『子どものための居場所論』ほか）よりご講演をいただきました。また、全国のYMCAで児童クラブ・児童館・キッズクラブなどに携わる職員の方々とのグループセッションも行いました。

阿比留先生の講演では、まず児童クラブなどの拠点が設立された背景や現在の状況についてお話いただきました。以前と比べて学童施設の数や利用する子どもの人数は増えており、居場所の“量”は広がっている一方で、子ども自身が自由に選べる時間や空間ではなく、大人の管理のもとにある場が増えてきている現状があるとのことでした。また居場所の在り方についても、子どもが主体となって形づくる「Byの居場所」や、大人と子どもが共に育てていく「Withの居場所」は減少し、大人が子どものために用意する「Forの居場所」の要素が強まっているとご指摘がありました。そのうえで、子どもが「ここに居たい」と感じられる場にするためには、大人が整えるだけでなく、子ども



と一緒につくっていく視点が欠かせないこと、そしてそのための関わり方や組織としての姿勢について学びました。

グループセッションでは、講演内容をもとに「子どもの居場所として大切にしたいこと」を共有しました。参加者それぞれの現場環境や背景は異なっていましたが、日頃の関わりの中で、子どもも大人も一人の人として互いの価値観を尊重しながら場をつくっていくことの重要性については共通しており、その大切さを改めて実感する時間となりました。

今回の研修を通して、YMCAに関わる子ども・大人・リーダー一人ひとりにとっての「ここに居たい」と思える居場所とは何かを改めて問い直す機会となりました。そして、その実現のために、日々の関わりや場づくりをこれからも丁寧に積み重ねていきたいと感じました。

盛岡YMCA盛南校スタッフ 宮澤 秋彦（シュリンプリーダー）

残していくこと



こんにちは！3日間いっぱい話していっぱい食べていっぱい笑った、じじもんです！1月16日から1月18日の3日間、静岡県御殿場市にあるYMCA 東山荘で、様々な農業に関わっている方々と交流してきました。

お昼のプログラムでは餅つきやお漬物、お味噌汁、りんごのデザートに焼き芋作りなどたくさんの食べ物に囲まれながらの活動で、お腹もいっぱいで大満足なプログラムでした。東山荘のレストランもバイキングで、朝も昼も夜もおかわりしっぱなしで確実に幸せタリです！ここまで、食べ物のことばかり話してきましたが、今回の第72回農村青年塾は生活の中の「命の循環」が大きなキーワードになっていました。お漬物で考えると、小さな生き物（微生物）たちの生命力を借りて野菜をより栄養価の高いものへ加工しています。このように、小さな生き物たちの力を借りている人間が自然や他の人に対して力を貸せることはなんだろうか、受け取った命を次へ生かすには何ができるだろうか、それを深く、考えてきました。

牧師さんが農村青年塾には何人か参加していて、盛岡で牧師をしている角谷晋次郎さんはこんなことをおっしゃっていました。三愛精神。神を愛し、人を愛し、土を愛する。この土が何であるか考えてみましょう、と。土ってなんだろう。私はかなり考えました。人が属するこの社会、食を提供するこの土壌、これを受容すること、環境を長く守ることが土を愛することかな。納得はできたけど、スケール大きくて身近じゃないな！正直こんな気持ちでした。そこで身近な、私にとっての“土”を考えました。私にとっての愛したい、大事にしたい場所は盛岡YMCAが作ってきた環境だと思いました。盛岡YMCAからもらったものは多いと感じています。友達や貴重な経験、記憶。この盛岡YMCAで子供たち、仲間たち、関わる全ての人達に同じようにたくさんのものをもらってほしい！この環境を作っていくこと、形と記憶に残していくことが、私の身近な命の循環なのかなとも思いました！

岩手大学1年 田口 佳樹
（じじもんリーダー）



2025年度 1月 寄付者（敬称略）
2025年度 維持会費 滝川 佐波子

2・3月活動案内

2月

サッカー	木曜	2/5、12、19	水泳	月曜	2/2、9、16、23
	幼児	2/14、21		水曜	2/4、18、25
	土曜小学生			木曜	2/5、12、19、26
体育教室		2/7、14、21、28		金曜	2/6、13、20、27
習字教室		2/3、10、17、24	英会話	水曜	2/4、18、25
ちきゅうと、あそぼう。		2/22		金曜	2/6、13、20、27

2月の開催予定イベント

- ・ 2月1日(日)：日帰りスキースクールA / 2月15日(日)：日帰りスキースクールB
- ・ 2月8日(日)：サンデースクール

3月

サッカー	木曜	3/5、12		水泳	月曜	3/2、9、16、23	
	幼児	3/7、14			水曜	3/4、11、18、25	
	土曜小学生				木曜	3/5、12、19、26	
体育教室		3/7、14、21、28		英会話	金曜	3/6、13、27	
習字教室		3/3、10、17			水曜	3/4、11、18	
ちきゅうと、あそぼう。		3/21~22			金曜	3/6、13	

3月の開催予定イベント

- ・ 3月22日(日)：スプリングフットサル大会
- ・ 3月15日(日)：サンデースクール

表紙の写真から



選ばれた子ども人権かるたの読み札▲

2026年2月25日は、ピンクシャツデーです。全国のYMCAは、毎年2月の最終水曜日にいじめについて考え、いじめられている人と連帯する思いを表す1日としています。今年の標語「だいじだよ わたしのきもち ぼくのきもち」は、盛岡YMCAの「子ども人権プロジェクト」が作成した「子どもの人権」カルタの読み札から選ばれました。